



【先週のメッセージより】第一テモテ2：1～7

「執り成しの務めを果たす者に」

- ★ 第一テモテは先輩宣教師パウロが、後輩のテモテに書き送った「教会運営マニュアル」のような性格を持った手紙である。テモテはこの時、エペソ教会のまとめ役をしていた。その中でパウロが教会の第一の務めとして教えていることが「とりなし」の祈りなのである。
- ★ 教会が「王と高い地位にある人たち」のために祈るのは、安定した社会が維持されるためであるが、ではなぜ、安定した社会が必要かと言えば、それは全ての人に救いの手が差し伸べられて、人々が神に立ち返るチャンスが与えられるためである、とパウロはここで言おうとしている。社会秩序のために祈ることは良いことなのである。
- ★ 私たちは神が「すべての人が救われて、真理を知るようになること」を求めておられることを先ず何よりもしっかり心に刻みたい。これは私たち教会が「地の塩・世の光」であると教えられていることとも合致している。地の塩として社会の腐れを食い止めつつ、福音の光を放ち、キリストの御業を人々に伝えることが教会の務めである。
- ★ 5～6節でイエスが「仲介者」となり、人類の贖いの代価として罪の支払いを私たちに代わってして下さったことが書いてあるが、今や、私たちもキリストにつながった者とされ、私たちも神の子供としての特権に与る者になったものとなった。これはすなわち執り成し手の務めが与えられたということにもなるのである。
- ★ ヨハネ14章～16章の「告別説教」において繰り返し「求めなさい」と言われているが、衣食住のことは異邦人が求めること、と山上の説教で主イエスは言われた。とするなら、何を求めたら喜ばれるのか？「神の国とその義」である。私たちの周りの人でノンクリスチャンがいるなら、その人のところには未だ「神の国とその義」は到来していない。ここに私たちの執り成しのポイントがある！
- ★ パウロが同胞のイスラエル人たちの救いのために涙と情熱をもって祈ったことに私たちも倣いたい！ Pray for Japan!

【執り成し手として成長するために（2）】

先週に引き続き、祈りについてです。私たちの教会が、目に見えない、霊的な領域において本当に影響力のある教会になっていくために何よりも祈りにおいて習熟し、実践して参りましょう。

● 祈りの人（祈りは世界を変える／ディック・イーストマン著より）

- ★ 私は聖書の時代以来この世に名を残した、多くの卓越したキリスト者たちの伝記を読んだ。ある者は金持ちで、ある者は貧しかった。ある者は学問があり、ある者は無学であった。ある者は監督教会派の信徒であったが、他の教派の者もいた。カルヴァン主義者もいたし、アルミニウス主義者もいたのである。ある者は儀式を重んじるし、ある者は重んじなかった。だが、ただ一つ共通するものがあつた。彼らは例外なく祈りの人であつた。（J.C.ライル）
- ★ 背徳は密室の中で始まる*。個人的な祈りを絶やさず、熱心に続ける者は、決してキリスト者としての生活と力から遠ざかることはない。絶えず祈る者は、常に喜びにあふれている。（アダム・クラーク）

● 名を挙げて祈る（祈りは世界を変える／ディック・イーストマン著より）

- ★ ジャック・マカリスト博士がEHCの本部職員の一人一人の名を挙げて祈るのを知って私は驚いた。博士はまた、その働きとかかわりのある全世界の指導者のためにも祈った。博士は、名簿にある二百人以上の働き人の一人一人のために、情熱と知恵と力が与えられるように、静かにしかも確信を持って祈っていた。それには働き人の夫人たちも含まれていた。それから博士は、同じ確信を持って、主なキリスト教指導者のために祈った。その中には、私のあまりよく知らない人も含まれていた。それからさらに、王、大統領、首相、政治家たちのために祈った。その中には、五十に上るイスラム教や共産主義の国々も含まれていた。博士は、指導者たちをひとまとめにして祈るのではなく、一人一人の名を挙げて祈ったのである。
- ★ ハンドレー・モール主教は…「一人一人の聖徒の名をあげて祈る決心をした」。次に「一人一人の聖徒の名をあげて、祈りの中で神と取っ組み合いをする決心をした」。そして「一人一人の聖徒の名をあげて取っ組み合い、答えを期待する決心をした」。

私たちも名前を挙げて執り成しの祈りをささげる者になりましょう！

※ 背徳は密室での祈りをおろそかにし始めることによって始める、との意